

テレビ部門



❖テレビ部門・大賞

福島中央テレビ「1Fリアル あの日、原発の傍らにいた人たち」。報道部デスクの岳野高弘さん（写真右）は「地元の局なので、事故当時は住民の取材がメイン。原発事故がどう起きて、そこに誰がいたのかは全然取材できていなかった。10年近く経って取材しようとなると、この人はどこにいるんだろうみたいな……」と苦労話を披露。長崎出身の岳野さんは「福島の人々が今何を考えているのかという視点を頭の片

隅に置きながら取材しないと独自性が出てこない。会津の話、戊辰戦争など、長い視点で見ないとわからないことがある」と語った。報道部長の木村良司さん（写真左）も登壇、「当時、自分たちも怯えていたその時、実はこんなことがあったというのを10年目に一つの形として放送できた。今報道部にいる多くは震災後に入ってきたスタッフなので、見てもいい、語り継ぎ、一つひとつ積み重ねていくことが大事」と述べた。

❖テレビ部門・優秀賞



関西テレビ放送「大豆田とわ子と三人の元夫」。プロデューサーの佐野亜裕美さん。「コロナが始まったところに脚本の坂元裕二さんと企画を立て始め、とにかく楽しいロマンティックコメディをやろうと。映像の質感も音楽も、見たことがない、明るい気持ちになれるものをと、スタッフ一丸となって作りました」



ETV特集「玉砕」の島を生きて〜テニアン島 日本人移民の記録」。グループ現代のディレクター太田直子さんに、取材対象者が衝撃的な事実を打ち明けたのは最後のテニアン行きときだったという。「今、言わなければ」と思わせるまでに、取材者との深い信頼関係を築いてきたことをうかがわせた。



NHK「忠臣蔵狂詩曲No.5 中村仲蔵 出世階段」。オットーモ代表取締役の源孝志さんは「最も大変だったのは、楽屋と一体的に作った、スタジオ内の中村座セットでした」と語った。「東映の美術さんからも怒られて。でも劇場が主役みたいなもんですから。（中村）勘九郎くんも見たとき涙ぐんでました」

59th GALAXY AWARDS ギャラクシー賞 贈賞式



2022年6月1日、第59回ギャラクシー賞贈賞式が、東京都内のホテルで開催された。

ユーチューブのライブ配信も2回目の試みとなり、コロナ禍を経たギャラクシー賞贈賞式のかたちが定着してきた感がある。会場には、約200人の受賞者、選考委員が十分なディスプレイをとって着席。ライブ配信の視聴者は、最大同時接続数8147件、のべ視聴回数は3万6519回を数えた。

今回、参加された作品は、4部門合わせて766本。部門ごとに、すでに発表されていた入賞作が壇上で表彰される。入賞作のなかから、その場で優秀賞、大賞作品が発表され、トロフィー「バードマン」が贈られた。

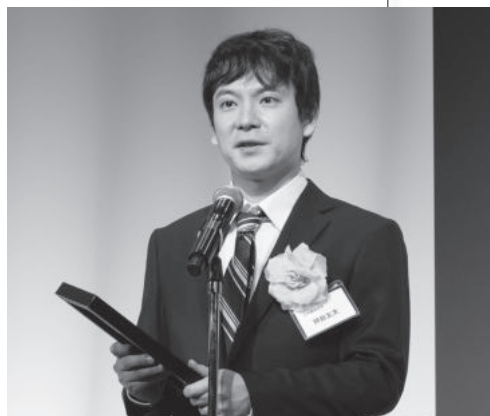
この1年間に放送された素晴らしい作品や活動、それに関わった人を誉めたたえる場であるギャラクシー賞。個人賞やDJバーソナリティ賞、志賀信夫賞なども華やかな表彰を受けた。村山仁志、鬼頭里枝両アナウンサーのテンポよい進行のなかで、サプライズゲストも仕掛けられたステージの上には、驚きと喜びと祝福が溢れた。

❖テレビ部門・フロンティア賞 CBC 定期配信型ドキュメンタリー 「ピエロと呼ばれた息子」



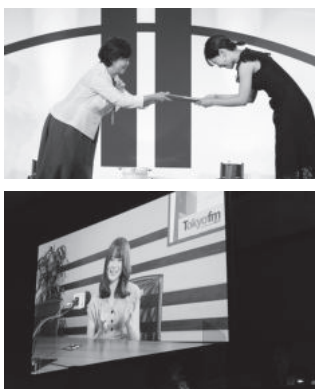
ディレクターの原誠さんは「一人でも多くの方に、道化師様魚鱗瘻という難病を知って理解してほしいという思いで定期配信を続けてきました。取材していくうちに賀久くんやご両親の明るく前向きな姿に心を打たれ、見ている方の明日を生きていく活力にもなるんじゃないかと」「ご両親が、このYouTube配信を通して生きやすくなった、生活しやすくなったのがありがたく、やりがいも感じました」と語った。CBCテレビ升家誠司社長（下の写真右）も部下たちの受賞を見守った。

NHKメディア総局ディレクターの押田友太さんと、脚本家の吉田恵里香さんが登壇。「アロマンティック・アセクシュアルの方は、新しいわけでも画期的なわけでもない。このドラマが知るきっかけになれば、とても嬉しい」「スタッフ、キャスト、考証チーム、何より辛いことや言いたくないことを話してくれた当事者の皆さん、全員で取れた賞だと思います」と押田さん。多様性の描写で評価される吉田さんも「当たり前で生活されている方々を物珍しく書くようなことは絶対しないように気を付けました」と話した。



ラジオ部門

❖ラジオ部門・DJパーソナリティ賞 森谷佳奈



番組開始時の「本当に自信がなくて」から「ラジオって失敗しても笑いに変えることができるメディアなんだ」と気づいたエピソードを披露。「ラジオは無限大の可能性を秘めている。できないことはないんじゃないかな」「山陰エリアから全国へこれからは発信して、SNSを使った会話のキャッチボールができる番組をどんどん作っていったら」と抱負を語った。サプライズだった乃木坂46の山崎怜奈さんからのビデオメッセージに「ご褒美ですね」と喜んだ。司会者の村山仁志さん、鬼頭里枝さんもDJパーソナリティ賞受賞者。3人揃った豪華な記念撮影も実現した。



テレビ部門

❖テレビ部門・個人賞 草薨 剛

受賞の喜びからお聞かせください、と問われた草薨さん。「快なり！快なり！」と徳川慶喜の台詞に応じ、拍手を誘った。「嬉しいです。本当にまだ快なりが続いてるんだなと思いました。快なり！ 何度も言います」「テレビ大好き！」とおどけた後、真面目な表情で「出演者がいて、たくさんのスタッフの方がいて、お芝居しやすい環境を毎日毎日作っていただいて、僕はこの慶喜という役と戯れて遊んでいた感じです。吉沢亮くん、堤（真一）さん、僕がもらっちゃってすみません」と感謝の言葉を述べた。高い評価を受けた演技については、「將軍を終わらないといけな、そういう切なさを出せたら」「もしかしたら今まで演じたことのないような深い感情が演技に込められるんじゃないかな」と。そこに、共演した堤真一さんがサプライズで登場。驚いた草薨さんは「さっき僕、知らないで堤さんの名前出しましたから」と笑顔に。その草薨さんを、堤さんは「淡々と抑えた演技で、知性と強さを表現できた、本当に素晴らしい慶喜だったと思います。おめでとうございます」と祝福した。ステージで再会した徳川慶喜と平岡円四郎。「堤さんがいると思わなかったので調子が崩れました」「なんだよ、オレのせいだよ」と、信頼関係の深さを垣間見せてくれた。



CM部門

❖CM部門・大賞

サントリーホールディングス「ほろよい飲んで、なにしよう?」。サントリー BWSの重野謙介さんは、「最近、広告は見えないなど悲しい声も聞くなかで、この広告をテレビで流したら、『やっと、ほろよいのCMを見られたよ』とお客さんがつぶやいてくれて、広告の力、テレビの力を改めて感じました」。コロナ禍では「低アルコールで夜長を過ごしていただくという意味で、新しいお客さんとの接点になったと思います」。制作チームの電通・奥野圭亮さんも登壇(写真下・右)。楽曲について、若い層の好む曲と50代が好む曲をマッシュアップする手法を説明した。



❖CM部門・優秀賞

大塚製薬 カロリーメイト「Midnight Train 篇」。2012年から受験生を励まし続け、10回目を迎えたシリーズの受賞に、「毎年、受験生たちから自分の年はどうなCMが流れるのかという期待の声が寄せられます」と、同社宣伝部の上野隆信さん。



輝け! みんなの九州プロジェクト 九州新幹線「流れ星新幹線」。九州旅客鉄道事業本部の浦佑希さんは「新幹線ではなく、実際はご協力いただいた沿線の皆さんが主役でした。皆さんの元気が、全国に世界に伝えられたと思うんです」。



大日本除虫菊 キンチョウ虫コナーズ「Hさんの話」はラジオCM。「音の世界はやはりイメージできるものが大きいと思います。情報があふれるなかで、音だけに心を寄せることで、かえってメッセージが伝わるのでは」と、同社専務取締役の上山久史さん。



ラジオ部門

❖ラジオ部門・優秀賞

信越放送 SBCラジオスペシャル「Lost and Found～家族と故郷を失った父と娘の10年～」。情報センター制作部プロデューサーの手塚孝典さんは、悲しみと苦しみを抱える家族に寄り添い、共に過ごした日々の温かいエピソードを語った。



琉球放送「わたした島のオーケストラ」。ラジオ局編成制作部の比嘉奈津子さん。辻井伸行さんと共演したコンサートは「感動の言葉を予想以上にいただきました。車をコンビニの駐車場に止め、そこから出られないくらいずっと集中して聞いたというリスナーも」。



エフエム東京 村上RADIO特別版「戦争をやめさせるための音楽」。「おめでとうと言われるような番組ではありません」とゼネラルプロデューサーの延江浩さん。「今時点で600万人を超える避難者の、600万分の1のストーリーをラジオで繋げるべきだ」と語った。



❖ラジオ部門・大賞

CBCラジオ「ERのオーケストラ」。テラ・プロジェクト ディレクターの森理恵子さんは200時間以上の取材を重ね、「医療に携わる方々の並々ならぬ思いと魂を込めた。24時間定点収録したところで、音だけにのすごい緊迫感が伝わり、いったい現場はどうなっているのかと想像した。目の前のすべての患者を救うために何ができるのかと真摯に向き合う救急医の熱意をいかに伝えるかを考えて作り上げました」と語った。



報道活動部門

❖報道活動部門・優秀賞



NHK「生理の貧困」に関する報道。ディレクターの市野凜さん。「経済的な貧困問題だと思って取材をスタートしましたが、生理に関わる社会の認識が貧困なのではという問題意識を取材先から学びながらフレームを広げていきました」と、影響が社会全体に広がった背景を語った。



TBSテレビ「報道特集」東京五輪めぐり調査報道キャンペーン。編集長の曹琴袖さんについて、「すべて発端は視聴者からの情報提供でした。特に内部の方からメールや電話を通して情報をいただいたことが放送に繋がりました」ときっかけを語った。



❖報道活動部門・大賞

CBCテレビ「偽りのアサリ～追跡1000日 産地偽装の闇～」。豊橋支社で漁業関係者から聞いた話をきっかけに取材を始めた吉田駿平さんは、スクープ後に東京支社営業部に異動。「なかなか難しい話題だったので協力してくれる人を見つけるのがすごく難しかったけれど、こういう話を明らかにしたいんだという強い思いに賛同してくれた方々の協力で成り立った。そういう方々には私がどの部署に行こうが関係ないので、連絡を取り合い、後は後輩や報道部に助けてもらいながら取材を進めていった」と明かした。



志賀信夫賞

川平朝清 沖縄放送協会初代会長



90年前に台北放送局のラジオに5歳で出演したのを皮切りに、沖縄の民間放送や公共放送の開局・運営からNHKへと、日本のみならず世界の放送界、研究機関や学会で働いてきた経歴と、志賀信夫との思い出を語った川平さん。「この栄誉ある賞を受け取ることができて非常に光栄に思っております。皆さんも長生きしてください」と穏やかな笑顔で語りかけた。サプライズで花束を持って登壇した長男のジョン・カピラさんは、父親をしっかり抱擁し、「I am so proud of my father」と耳もとでささやいたという。そして会場に向かって「本当に素晴らしい栄誉を父に授けていただき、誠に感謝申し上げます。普通は表現逆ですけども、“自慢の父”です」と笑顔いっぱい父を称えた。



マイベストTV賞グランプリ

毎日放送 ドラマ特区「美しい彼」

ダブル主演の萩原利久さん、八木勇征さんが登壇。原作者、スタッフ、ファンへの感謝の言葉は、瑞々しさと慎みを感じさせた。互いの初対面の印象を聞かれた萩原さんが「原作のイメージそのままの美しい清居奏がいると思った」と語ると、八木さんも「打ち解けやすい明るい性格でスタッフを気遣うムードメーカーの役割もしてくれて、とても頼りになる存在」と応じた。「心の声で自分の感情を説明することが多い役なので、言葉以外のありとあらゆるものを使って演じることを一番意識しました」（萩原）、「佇まいや纏っている雰囲気とか、すべてで尊い存在に見えることを考えながらも、人間らしさもすごくあるキャラクターなので、そういうところを意識して作り上げていきました」（八木）と、役作りに臨んだ姿勢を語った。



文／飯田みか 写真／岩尾克治、官野 貴、花井健朗、加藤 洸